

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和 6 年度病害虫発生予察防除情報 第 3 号を發表します。

フェロモントラップ及び予察灯において、平年を大幅に上回る果樹カメムシ類の誘殺が確認されています。 果樹園での発生状況に十分注意し、防除対策を徹底するようご指導願います。

---

**令和 6 年度病害虫発生予察防除情報 第 3 号**  
**果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について**

- 1 対象作物** 果樹類（特にナシ、モモ、カンキツ、ビワ、カキ）
- 2 病害虫名** 果樹カメムシ類  
（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
- 3 発生地域** 県内全域
- 4 発生状況について**

（1）一般的に果樹カメムシ類（写真 1）の発生量には隔年性があり、本年は発生の多い表年に該当する。本年は、例年に比べて早い 4 月中旬から越冬世代成虫の活動が盛んになっており、4 月のフェロモントラップ合計誘殺数が平年値を大幅に上回ったため、発生予察注意報 第 1 号を 5 月 2 日に發表し、注意喚起を行っている。

（2）その後もフェロモントラップにおいて、表年の平均を上回る誘殺が認められている。チャバネアオカメムシの 5 月 1～4 半旬の合計誘殺数は、加西市で 726 頭（表年の過去 5 年分平均 312 頭）、朝来市で 947 頭（表年の過去 5 年分平均 75 頭）と、表年の平均より極めて多い状況にある（図 1）。

（3）ツヤアオカメムシの予察灯での 5 月 1～4 半旬の合計誘殺数は、加西市で 15 頭（表年の過去 5 年分平均 0.4 頭）、南あわじ市で同 170 頭（同平均 13.4 頭）と、表年の平年値よりも極めて多い（図 2）。

（4）県内のモモ、カンキツ、ビワの栽培園地にて、越冬世代成虫が飛来し、果実や新梢<sup>しょう</sup>を加害した事例が認められている。

**5 今後の発生予想について**

現在、越冬世代の飛来最盛期であると考えられるが、発生量が多いことから、果樹

園への飛来が長期化する可能性がある。特に山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、被害発生に注意が必要である。

## 6 防除上の留意点

- (1) ナシ、モモ等の有袋栽培では、袋かけ作業を早めに実施する。袋をかけていても、果実が肥大して袋に密着すると外部から吸汁される場合があり（写真2）、多発時には思いがけず被害果（写真3）が増えるおそれがあるため、袋かけ後の発生状況にも注意する。
- (2) 果樹カメムシ類の果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (3) 果樹カメムシ類は夜間を中心に活動するため、薬剤散布は夕方に行うと効果が高い。また、移動性が高いため、薬剤散布は広域的に一斉に実施し、地域全体の密度を下げるのが望ましい。
- (4) 薬剤散布を行う場合は、農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

なお、合成ピレスロイド剤は効果が高く残効も期待できるが、天敵昆虫に対する影響が強く、ハダニ類など他害虫を誘発するおそれがあるため、使用にあたっては他の害虫の発生状況も十分に考慮する。



写真1 果樹カメムシ類成虫  
(左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)



写真2 袋の上から加害されるビワ果実  
(北淡路農業改良普及センター提供)



写真3 果樹カメムシ類による幼果被害 (左: ナシ、右: モモ)  
※矢印が被害箇所を示す

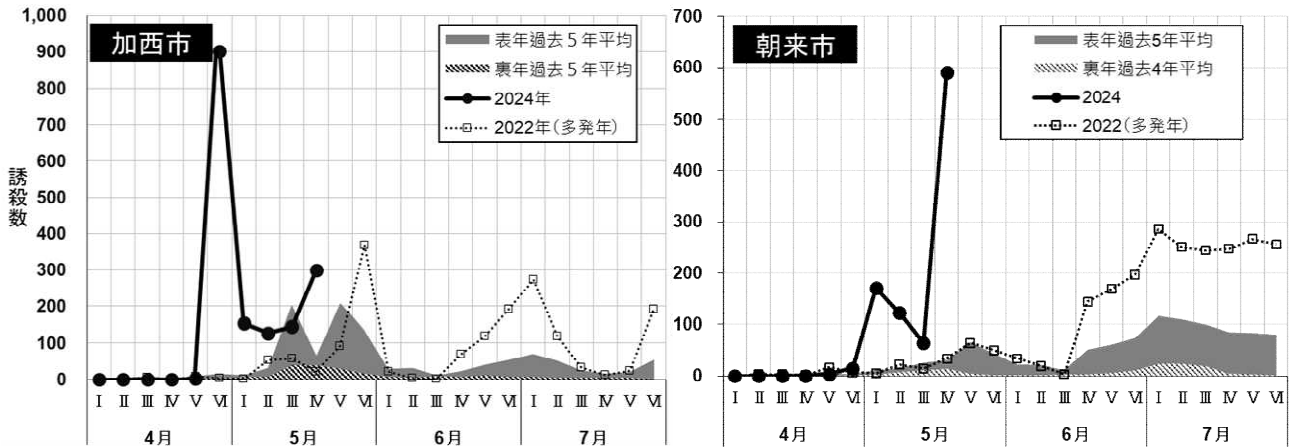


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

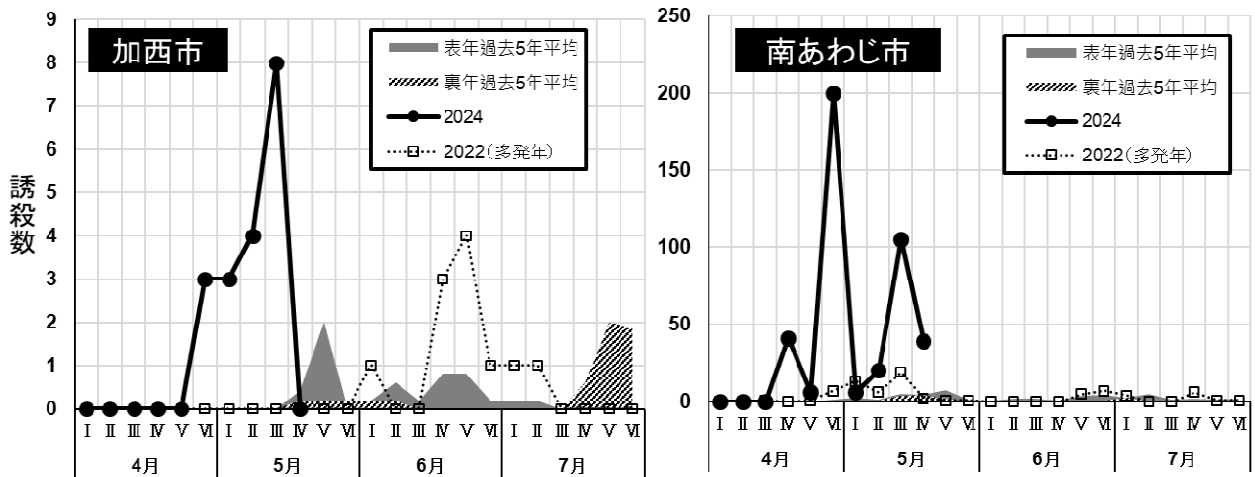


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移

\*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisange.jp>

\*農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

\*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222